

令和4年度発掘調査

埋文

# さかど年報



勇福寺遺跡3区全景

坂戸市教育委員会

坂戸市は埼玉県の中部に位置し、高麗川<sup>こまがわ</sup>や越辺川<sup>おっぺがわ</sup>といった中小河川が市内を流れています。さらには、起伏の少ない平坦な台地（坂戸台地・毛呂台地<sup>もろ</sup>）が市域の大部分を占め、台地の縁辺部には、河川の氾濫<sup>はんらん</sup>により形成された肥沃な沖積平野<sup>ちゅうせき</sup>が存在するなど、恵まれた地勢が広がっています。この恵まれた地勢は、1万年以上も昔から人々の営みの根幹をなし、その営みは『遺跡』として私たちの目の前に姿を現しています。

現在の坂戸市では152箇所が遺跡（周知の埋蔵文化財包蔵地）として登録され、市内の開発を契機として記録保存を目的とした発掘調査が行われています。令和4年度では20地点において発掘調査が行われ、貴重な遺物や遺構が出土しました。

日々の生活の中では垣間見ることのできない発掘調査の様子や成果を、「埋文さかど年報」を通じて体験していただければと存じます。

## おもなできごと

旧石器時代	縄文時代	弥生時代	古墳時代	飛鳥時代 <sup>あすか</sup>	奈良時代	平安時代	鎌倉時代
約3万5千年前	約1万5千年前	約2,300年前	約1,750年前	約1,450年前	約1,300年前	約1,200年前	約800年前
大陸から日本列島へ人々が渡ってくる	市内最古の土器（縄文時代早期）土器誕生 市内で石器が出土（後期旧石器時代）	大家地区で多彩な耳飾りが出土 市内各所で環状集落が営まれる（縄文時代中期）	青銅器（銅鐸）などが使用される 稲作伝来・鉄器などが使用される 佐賀県吉野ケ里遺跡の環濠集落などができる 墳丘墓の出現	市内で古墳がたくさん造られる 国内で須恵器の生産が始まる 前方後円墳の出現	平城京遷都（710年） 秩父で和銅が産出 和同開珎鑄造 若葉駅周辺に大規模な集落が出現する 勝呂廃寺や東山道武蔵路がつくられる 大化の改新（乙巳の変）645年	平安京遷都（794年）	鎌倉幕府成立 壇ノ浦の戦いで平家滅亡（1185年） 入西地区や勝呂地区の武士が活躍する 武蔵武士が活躍 関東で平将門の乱が発生（935年）

【**竪穴建物**（たてあなたてももの）】

半地下式構造の建物。居住だけではなく工房や倉庫等、様々な用途に使用された。

【**掘立柱建物**（ほったてばしらたてももの）】

地面に掘った穴の中に柱を立てた建物。平屋構造、高床構造に分類され倉庫や居住用として使用された。

【**カマド**】

竪穴建物内に敷設された加熱施設。調理や暖房として使用された。

【**土師器**（はじき）】

古墳時代以降に作られた素焼きの焼き物。焼き上がりは赤褐色や黄橙色になる。

【**須恵器**（すえき）】

古墳時代に朝鮮半島から伝来した硬質の焼き物。ロクロで成形され、登り窯を用いて焼成する。焼き上がりは青灰色や灰色となる。

【**比企型坏**（ひきがたつき）】

赤色に塗彩された素焼きの土器。主に古墳時代中期以降にかけて埼玉県の比企・入間地域を中心に分布する。



比企型坏

【**円筒埴輪**（えんとうはにわ）】

埴輪を構成するうちのひとつ。筒状の形状をしており、古墳の周りに配置された。

【**朝顔形埴輪**（あさがおがたはにわ）】

埴輪を構成するうちのひとつ。基本的な造りは円筒埴輪と同じだが、埴輪の上部において、朝顔の花が開くような形状をしている。

古墳の周りに配置された。



朝顔形埴輪



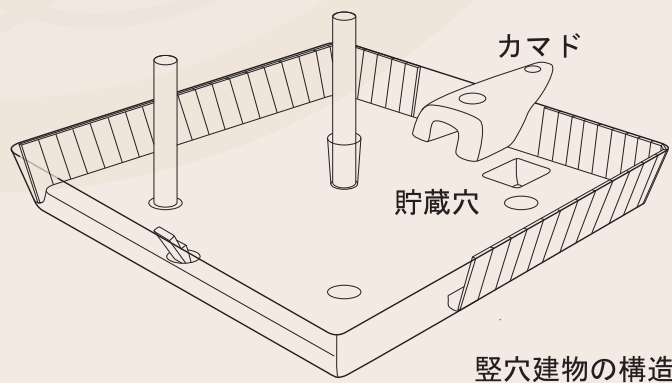
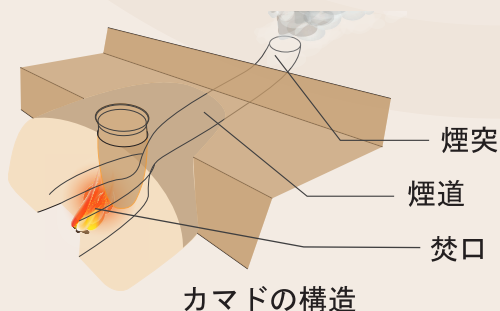
提砥

【**提砥**（さげと）】

携帯用の砥石。砥石に穴を空け紐を通し、腰などに携帯できるようにしている。

【**鋳物師**（いもじ）】

ほんしょう  
焚鐘・鉄鍋などの鋳物を作る職人。



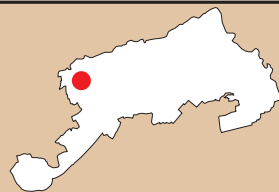
## 1 ながおか 長岡遺跡 28区 (坂戸市大字長岡地内)

調査理由：個人住宅建設

調査期間：令和4年3月1日(火)～同4月22日(月)

調査面積：217㎡

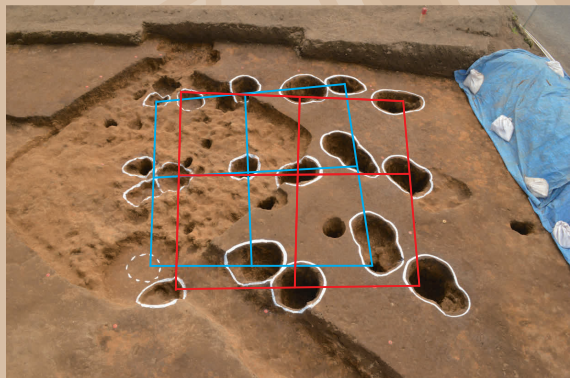
検出遺構：竪穴建物1棟、掘立柱建物2棟、土坑1基、溝2条



長岡遺跡は坂戸市の西端、入西地域の毛呂台地上に位置しています。付近には越おつ辺川べがわが流れ、水源に恵まれる地であることから様々な時代に人々が住み着き、連綿れんめんと続いた集落の痕跡が発見されています。

長岡遺跡28区は個人住宅の建設に伴って調査され、竪穴建物1棟、掘立柱建物2棟、土坑1基、溝2条を調査しました。調査した掘立柱建物は、2間×2間の総柱たてあなたものの掘立柱建物で、出土遺物が少ないため年代等は判然としませんが、倉庫などとして使われていたことが想定されます。

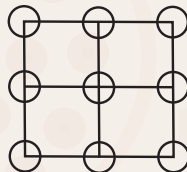
また、この掘立柱建物は建て替えが行われていたことが調査の結果判明しています。老朽化に伴う建て替えが行われたのかもしれませんが。



1号・2号掘立柱建物

### 《総柱掘立柱建物》

柱間すべてにくまなく柱が配置された建物。高床で倉庫などに用いられる。



## 2 長岡遺跡 29区 (坂戸市大字長岡地内)

調査理由：個人住宅建設

調査期間：令和4年5月20日(金)～同6月10日(金)

調査面積：44㎡

検出遺構：竪穴建物2棟、溝1条、土坑1基、ピット2基



長岡遺跡29区は個人住宅の建設に伴って調査が行われ、古墳時代後期の竪穴建物を中心に複数の遺構が検出されました。長岡遺跡は古墳時代後期の竪穴建物が広範囲で発見されており、この竪穴建物も集落を構成するうちのひとつであると考えられます。



長岡遺跡29区全景写真

### 3 長岡遺跡30区 (坂戸市大字長岡地内)

調査理由：個人住宅建設

調査期間：令和4年6月20日(月)～同8月31日(水)

調査面積：167㎡

検出遺構：竪穴建物19棟、掘立柱建物5棟、土坑2基、柵列1列、ピット29基



長岡遺跡30区は個人住宅建設に伴い、発掘調査が行われ、竪穴建物を中心に多くの遺構・遺物を検出しました。

竪穴建物は縄文時代中期、古墳時代後期～終末期、奈良時代の3つの時代に区分できます。最も多く見つかっている竪穴建物は、古墳時代後期～終末期にかけての竪穴建物で、この時代にかけて多くの人々の生活が営まれていたようです。



また、特筆できる出土遺物としては、15号竪穴建物から出土した「<sup>へきぎよくせいくだたま</sup>碧玉製管玉」が挙げられます。<sup>くだたま</sup>管玉とは、弥生時代から古墳時代にかけての装身具の一種で、首飾りなどに用いられます。古墳の副葬品として副葬されることが多く、竪穴建物から出土することは稀であり、貴重な発見といえます。



15号住 <sup>へきぎよくせいくだたま</sup>碧玉製管玉出土状況



15号住 <sup>ひきがたつき</sup>比企型坏出土状況



3号住 <sup>さげと</sup>提碓出土状況



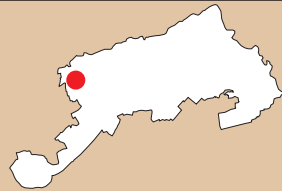
#### 4 長岡遺跡 3 1 区 (坂戸市大字長岡地内)

調査理由：個人住宅建設

調査期間：令和4年10月3日(月)～同10月28日(金)

調査面積：92㎡

検出遺構：竪穴建物4棟、土坑3基、ピット6基、柵列1列



長岡遺跡 3 1 区は個人住宅建設に伴って発掘調査が行われました。

2号竪穴建物からは吉ヶ谷式土器よしがやつと呼ばれる土器が出土しており、年代は古墳時代初頭に位置付けられます。吉ヶ谷式土器は、弥生時代の後期に埼玉県内で登場する土器で粗い縄文せもんが施文され、土器を成形する際の粘土の積み上げ痕わづみこん(輪積痕)を器面に残す特徴がみられます。坂戸市内でも多く出土しており、年代観を測るうえで重要な土器群となっています。



2号竪穴建物遺物出土状況



吉ヶ谷式土器 輪積痕・縄文施文

#### 5 若宮遺跡 6 区 (坂戸市大字成願寺地内)

調査理由：個人住宅建設

調査期間：令和4年6月13日(月)～同6月24日(金)

調査面積：26.4㎡

検出遺構：溝1条



若宮遺跡は坂戸市西部の入西地域に位置し、付近には葛川が流れています。今回の調査では溝1条を検出しました。溝幅は約140cm、深さは約70cmで、溝の断面は底面が狭い薬研状やげんに堀が掘削されていました。溝の形状から掘削された年代は中世以降と考えられます。付近には13世紀創建と伝わる成願寺じょうがんじが存在しており、今回調査した溝との関連性が窺えます。



1号溝完掘状況写真

薬研堀(断面形)

## 6 <sup>しもだ</sup> 下田遺跡 8 区 （坂戸市西インター一丁目地内）

調査理由：個人住宅建設

調査期間：令和4年5月19日（木）～同8月3日（水）

調査面積：2,700㎡

検出遺構：掘立柱建物1棟、土坑17基、ピット6基、道路状遺構2条



下田遺跡8区は物流倉庫建設に伴って発掘調査が実施されました。過去の調査地点の追加調査であったため出土遺物や検出遺構は僅少ですが、土層や土壌分析の結果から土地利用の変遷に関する手がかりを得ることが出来ました。

下田遺跡のすぐ脇を流れる高麗川は古くから「暴れ川」として知られ、氾濫を繰り返してきました。現在は護岸工事が進み氾濫の危険性は少なくなりましたが、古代の人々にとっては脅威であったに違いありません。しかし、高麗川の氾濫は脅威だけでなく、豊かな土壌をもたらすものでもありました。

今回の調査区では水田耕作が行われていたことを示す物証は得られませんが、これまでの調査結果からは古代から中世にかけて水田耕作が行われていた可能性が高いことが判明しています。下田遺跡は、古代の人々が過酷な自然環境と共生する姿を私たちに示してくれています。



下田遺跡8区空中写真

## 7 <sup>すぐろ</sup> 勝呂遺跡 24 区 （坂戸市大字石井地内）

調査理由：個人住宅建設

調査期間：令和4年10月4日（火）～同11月4日（金）

調査面積：89㎡

検出遺構：竪穴建物3棟、掘立柱建物1棟、土坑1基、ピット5基



調査区全景

勝呂遺跡は坂戸台地縁辺部に位置し、付近には勝呂廃寺が隣接しています。今回の調査では竪穴建物をはじめとする複数の遺構を調査しました。検出した遺構は激しく重複しており、最も古いものは古墳時代終末期（7世紀後半）段階まで遡ります。竪穴建物に関しては、すべて平安時代（9世紀）頃と考えられ、短い期間のうちに建て替え等が行われたと考えられます。

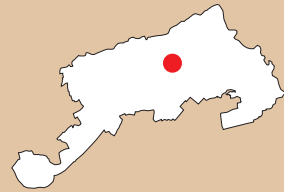


調査理由：土地区画整理事業

調査期間：令和4年5月23日(月)～令和5年1月10日(火)

調査面積：1,841㎡

検出遺構：竪穴建物26棟、掘立柱建物1棟、古墳5基、  
方形周溝墓2基 土坑7基、溝4条



勇福寺遺跡は坂戸市北東部の坂戸台地縁辺部に位置し、付近には飯盛川いもりがわが流れています。近隣では入間郡域最大規模の胴山古墳どうやま(全長63.2m、前方後円墳)を擁する新町古墳群しんまちや小規模の古墳が点在する片柳古墳群が展開しています。

今回の調査区では古墳や方形周溝墓、竪穴建物を中心に多数の遺構・遺物を検出しました。

### 古墳・方形周溝墓・竪穴建物・溝、土坑



勇福寺遺跡3区 空中写真

### 勇福寺遺跡3区の古墳

調査区内で検出した古墳は5基を数えます。墳丘は削平され残存していませんでしたが、古墳の周りを巡る周溝は良好な状態で検出することができました。

また、古墳の形状はすべてが円形の形状をした円墳えんぶんです。最も大きい4号墳は直径約27mを測り、坂戸市内で確認されている円墳の中では比較的大型の分類に入ります。古墳の年代観は概ね6世紀前半から後半(古墳時代後期)と推定されます。出土遺物に関しては、1号墳、2号墳、3号墳から筒状の形状をした円筒埴輪えんとうはにわを中心に多量の埴輪が出土しました。特に2号墳からは保存状態の良好な円筒埴輪や、朝顔形埴輪あさがおがたと呼ばれる特殊な形状の埴輪が出土し、坂戸市内の古墳の変遷を考察するうえで重要な発見となりました。





1号墳



1号墳

← ↑ 1号墳埴輪出土状況

2号墳埴輪出土状況 ↓ →



2号墳



2号墳



2号墳

朝顔形埴輪出土状況



3号墳

3号墳埴輪出土状況



### 《埴輪に刻まれたへら記号》

勇福寺遺跡3区から出土した円筒埴輪には、へら記号と呼ばれる記号が刻まれていました。このへら記号は、埴輪を製作した工人こうじんによって刻まれたと考えられていますが、一体何を意味しているのかは定かではありません。一説によると作成した工人を区別するためとも考えられています。

## 勇福寺遺跡 3 区の方形周溝墓



1号方形周溝墓空中写真

は底部穿孔された大型の壺片が出土しており、葬送儀礼に用いられたと考えられます。1号方形周溝墓の年代は概ね3世紀後半～4世紀初め（弥生時代終わり頃から古墳時代初め頃）と推定されます。

検出した方形周溝墓は2基を数え、こちらも盛土は削平され残存していませんでしたが、掘り込まれた周溝を検出することができました。

1号方形周溝墓は直径13mを測ります。南西隅は4号墳によって破壊されていましたが、比較的保存状態が良く、北東隅付近から

## 勇福寺遺跡 3 区の竪穴建物



13号竪穴建物生活面



《石皿炉》

13号竪穴建物には「石皿炉」と呼ばれる灰白色粘土を炉床材に用いた炉が造られていました。



《ミニチュア土器》

床面の直上から出土しました。一体何に使用されたのでしょうか。

13号竪穴建物は2号墳によって建物の北側及び東側が破壊されており、全体の大きさが判然としませんが、1辺約6～7mの竪穴建物と考えられます。建物の年代観は出土遺物の傾向から弥生時代末から古墳時代前期と推定でき、床面からはミニチュア土器と呼ばれる小型の土器が複数点出土し、特筆されます。



23号竪穴建物遺物出土状況

23号竪穴建物は1辺6mの竪穴建物です。床面付近に散布する焼土や、炭化木材の状況等から焼失竪穴建物であると考えられます。建物の中央付近や北側コーナー付近からは古墳時代前期の良好な一括資料が出土しました。建物の西側コーナー付近は4号墳の構築によって破壊されています。

9

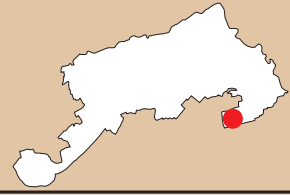
原遺跡10区（坂戸市大字なかおさか中小坂地内）

調査理由：個人住宅建設

調査期間：令和4年6月21日（火）～同7月1日（金）

調査面積：19㎡

検出遺構：竪穴建物1棟、土坑1基



原遺跡は坂戸市南東部、川越市との市境付近に位置しています。

今回の調査では平安時代の竪穴建物1棟を調査しました。出土遺物は僅かでしたが、須恵器の坏としいし、砥石などが出土し、当時の生活の様子を伝えています。



1号竪穴建物遺物出土状況写真



1号竪穴建物生活平面写真

10

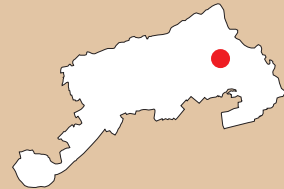
蔵ヶ谷戸遺跡6区（坂戸市大字つかごし塚越地内）

調査理由：個人住宅建設

調査期間：令和4年7月1日（金）～同7月26日（火）

調査面積：34㎡

検出遺構：溝1条



1号溝遺物出土状況

蔵ヶ谷戸遺跡は坂戸市東部の坂戸台地縁辺部に位置し、付近には越辺川おっぺがわが形成した沖積地ちゅうせきちが広がっています。

今回の調査では溝を1条調査しました。調査区が狭い範囲であったため検出された溝はごく一部でしたが、これまでの発掘調査の成果から溝幅は6～9m、深さは1.8m以上の大規模な溝であると推定できます。また、付近には西光寺館さいこうじと呼ばれる中

世以降の館の存在が確認されており、今回調査した溝は館に関連する区画溝、あるいは堀である可能性も考えられます。



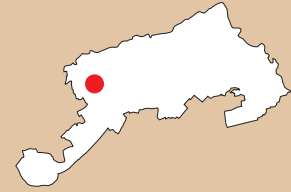
11 <sup>はなみづか</sup>花見塚遺跡19・20・21区（<sup>こやま</sup>坂戸市大字小山地内）

調査理由：個人住宅建設

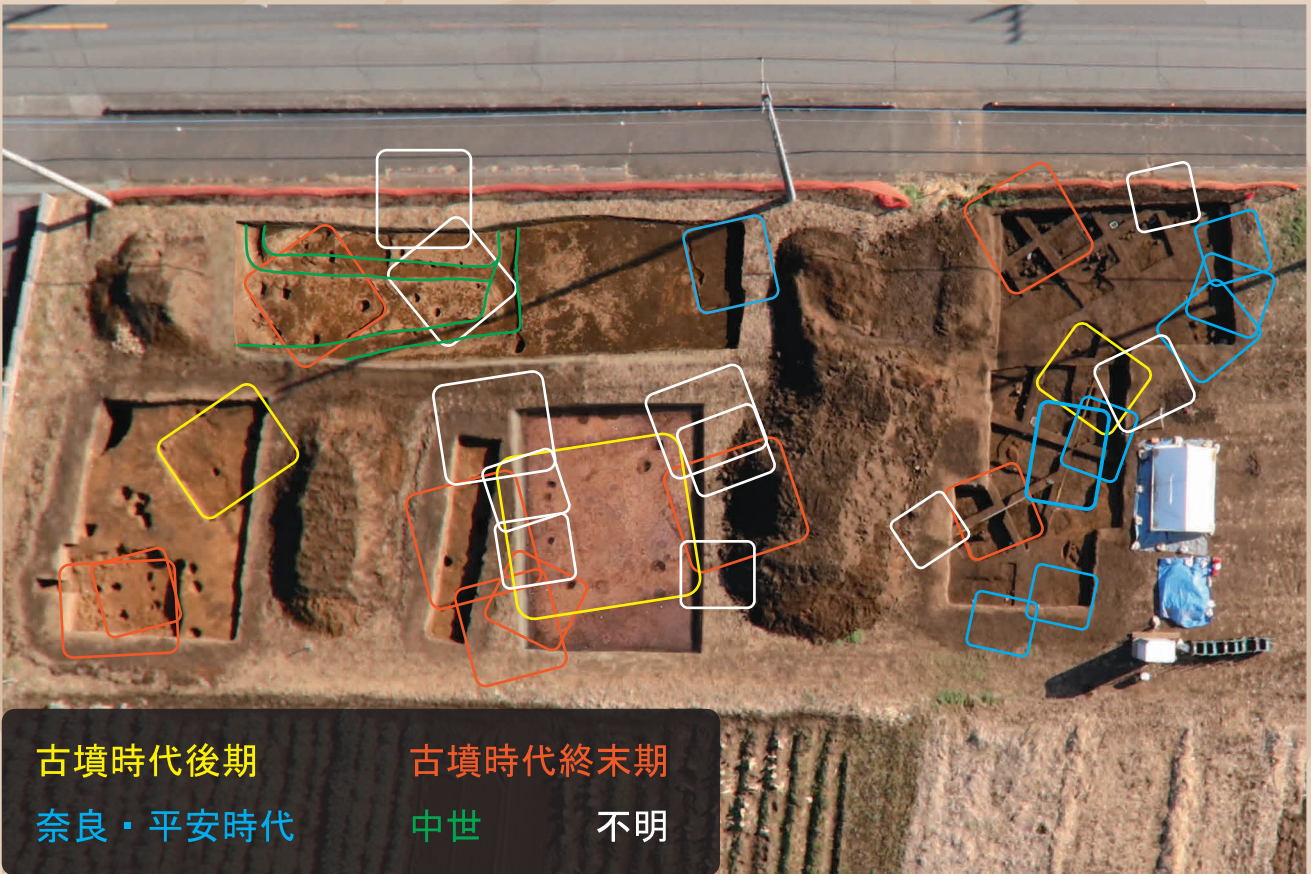
調査期間：令和4年12月5日（月）～令和5年3月30日（木）

調査面積：19区141㎡、20区130㎡、21区138㎡

検出遺構：竪穴建物31棟、掘立柱建物1棟、溝2条、井戸2基  
土坑10基、ピット22基、貯蔵穴1基



花見塚遺跡は坂戸市西部の入西地域、毛呂台地上に位置しています。付近には長岡遺跡や塚原古墳群<sup>つかはら</sup>などが隣接し、遺跡が集中する地勢です。今回の発掘調査では、竪穴建物や中世の区画溝など、複数の遺構・遺物が検出されました。

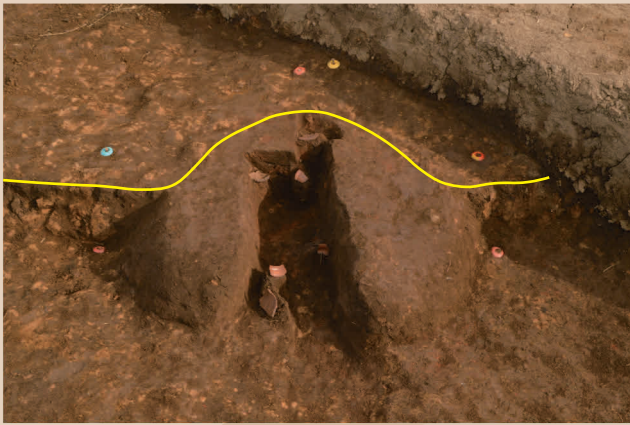


花見塚遺跡19～21区空中写真

検出した竪穴建物は出土遺物等から、古墳時代後期（6世紀頃）、古墳時代終末期（7世紀頃）、奈良・平安時代（8・9世紀頃）の3つの時期に区分することができます。また、竪穴建物は複雑に重複しており、古代の人々が長い期間生活を営んでいたことを物語っています。



1号竪穴建物生活面



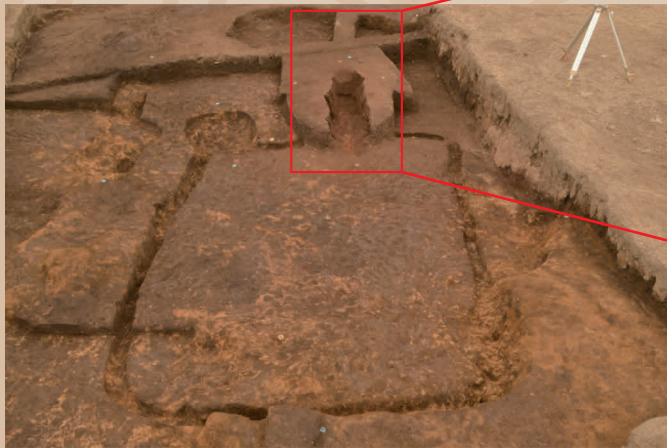
1号竖穴建物 カマド生活面



1号竖穴建物  
石製紡錘車出土状況

1号竖穴建物は古墳時代後期（6世紀頃）の竖穴建物です。石製紡錘車をはじめとして、複数の遺物が出土しました。

8号竖穴建物は平安時代の竖穴建物です。建物は長方形に近い形状をしており、他の竖穴建物との違いが見受けられます。また、検出したカマドは煙道部分が長くかなり大型です。焚口部分も強く被熱を受けており、集中的に使用された様子が確認できました。



8号竖穴建物 生活面



←《煙道》  
煙を建物外へ逃がすための排煙設備

←《焚口》  
薪をくべ、火を焚く、被熱により土が赤く変色している



8号竖穴建物出土須恵器「坏」



2号竖穴建物出土 灰釉陶器「本」

### 《土器に書かれた文字 墨書土器》

発掘調査から出土した土器の中には、稀に墨で文字が書かれている『墨書土器』が見つかることがあります。人物の名前や地名、土器が使用された場所等が書かれており、当時の情報が読み取れる貴重な遺物です。

花見塚遺跡からも墨書土器が出土しており、灰釉陶器の底部に「本」と書かれていました。「タテマツル」と読むことができるため、祭祀等に使用された可能性が考えられます。

## 12 <sup>うちで</sup>内出遺跡9・10・11区（坂戸市大字新堀地内）<sup>にいほり</sup>

調査理由：個人住宅建設

調査期間：令和4年8月5日（金）～同10月20日（木）

調査面積：9区252㎡、10区63㎡、11区4㎡

検出遺構：土坑7基、井戸2基、ピット48基



内出遺跡は坂戸市入西地区、入西条里を見下ろす毛呂台地縁辺部に位置しています。今回の調査では井戸を含む複数の土坑やピットを調査しました。調査した井戸などは出土遺物から中世に掘削されたものであると考えられます。また、調査区のすぐ近くには中世<sup>いもじ</sup>鋳物師の痕跡が出土した金井B遺跡が隣接しており、当遺跡との関連が想定できます。



1号井戸 水没状況

## 13 内出遺跡12・13区（坂戸市大字新堀地内）

調査理由：個人住宅建設

調査期間：令和5年1月12日（木）～同2月16日（木）

調査面積：12区65㎡、13区108㎡

検出遺構：粘土採掘坑2基、土坑11基（土坑墓3基）、溝2条、ピット1基



今回の調査区からは粘土採掘坑と思われる大型の土坑が検出されました。出土遺物が限定的であるため、正確な掘削年代は不明ですが、隣接する金井B遺跡との位置関係から中世の掘削と推定されます。



12区調査区全景  
(中央：粘土採掘坑)



13区 粘土採掘坑

## 14 内出遺跡14区 (坂戸市大字新堀地内)

調査理由：個人住宅建設

調査期間：令和5年2月21日(火)～同3月10日(金)

調査面積：81㎡

検出遺構：竪穴建物2棟、土坑4基、溝1条



今回の調査区からは竪穴建物を中心に複数の遺構が検出されました。竪穴建物は出土遺物から8世紀後半～9世紀前半(奈良時代から平安時代初頭)の年代観が与えられます。

2号竪穴建物のカマドからは、カマドの構築材として使用されたとと思われる須恵器の坏や甕の一部が出土しました。破損した須恵器を構築材として再利用したと考えられます。

2号竪穴建物カマド 遺物出土状況



## 15 明泉遺跡12区 (坂戸市大字塚越地内)

調査理由：個人住宅建設

調査期間：令和5年2月24日(金)～同3月24日(金)

調査面積：54㎡

検出遺構：竪穴建物4棟、掘立柱建物1棟、土坑1基、ピット19基、柵列1列

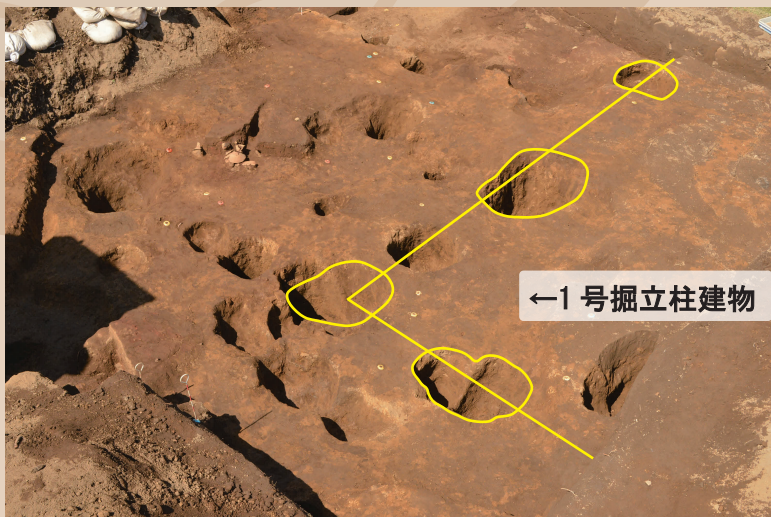


個人住宅建設に伴って発掘調査が行われ、複数の遺構を検出しました。

出土した竪穴建物は4棟でいずれも6世紀初頭～中頃の年代観が与えられます。同時期の竪穴建物が重複していることから、比較的短時間のうちに建て替えが行われたと考えられます。

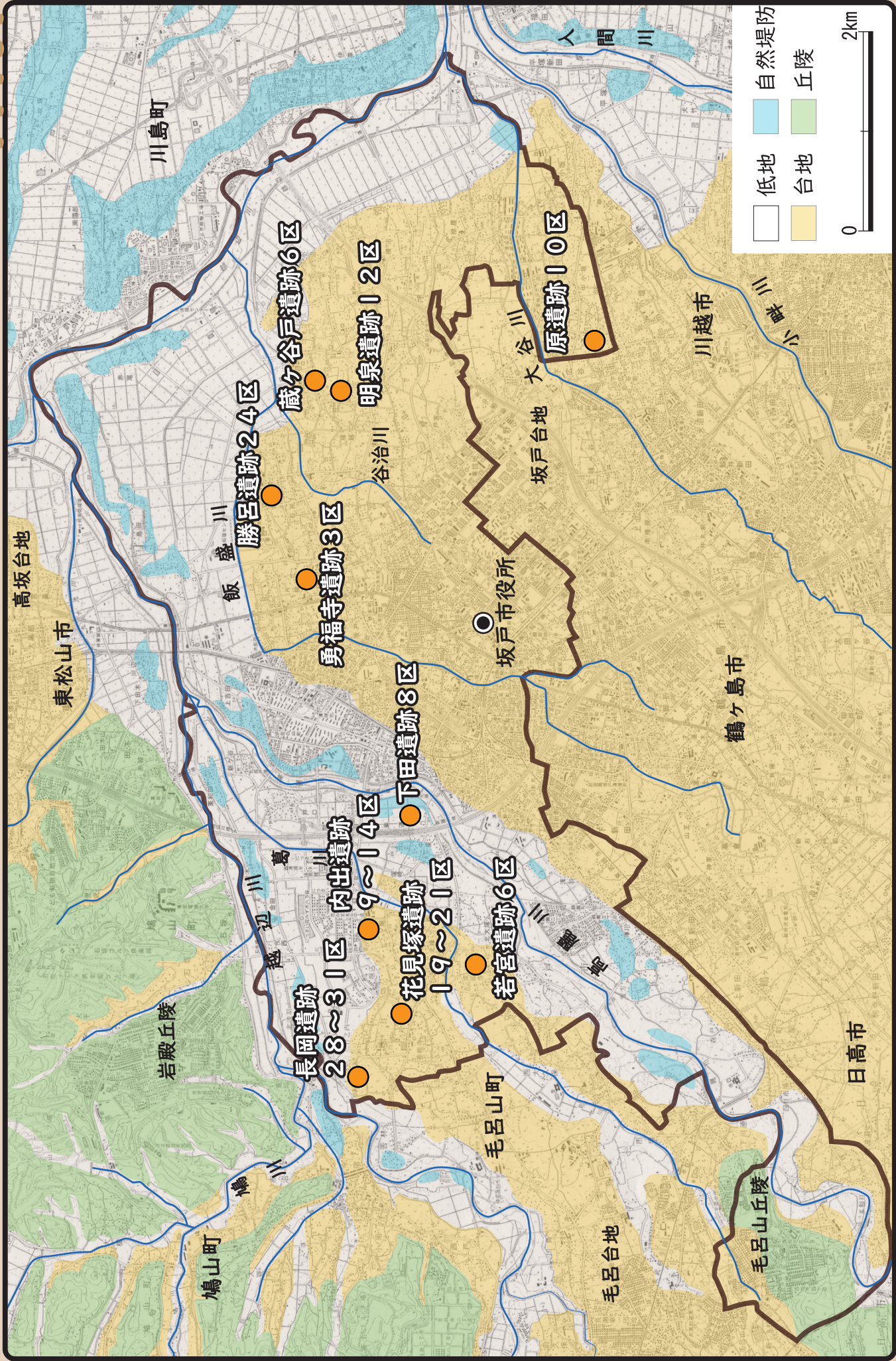
調査した1号掘立柱建物は出土遺物から6世紀中頃～7世紀段階に位置付けられます。

柱穴の形状は長方形ないし正方形で、黄褐色土と黒色土が交互につき固められ、柱が据え付けられている様子が確認できました。建物の規模、柱穴の状況から比較的格式の高い建物であると想定されます。調査区付近には雷電塚古墳等の盟主墳と目される古墳が造営されており、今回の調査で検出した遺構との関係が注目されます。



明泉遺跡12区 全景写真

# 令和4年度発掘調査地点



埋文さかど年報  
令和4年度発掘調査

発行：令和5年12月31日  
 発行者：坂戸市教育委員会 坂戸市千代田一丁目1番1号  
 印刷：有会社社 東京芸芸社